

あしたの風

第 87 号

平成 30 年 9 月 3 日 発行
編集発行 秋田市教育委員会
生涯学習室

秋 田 市 の 生 涯 学 習



秋田市土崎みなと歴史伝承館
～秋田市土崎地区の歴史と文化を伝える施設～

☆☆土崎地区☆☆

健康麻雀 (キタス力)

健康麻雀事務担当

金野笑子



競技の時間はあっという間

生涯教育の中で、現在脚光を浴びている一つに健康麻雀がある。我がサークルでは「自分に厳しく他人に優しく」を心掛け、円熟男女が競技中は酒飲まず、煙草吸わず、金賭けず、牌の組み合わせに四苦八苦しなから、頭脳、指先をフル回転させ、ボケてなるかと手作りで精を出している。ふっと間が空くと明るい会話が飛び交い、室内は笑いの渦で大賑わい。毎回実績をメモしていく人もいて意欲満々。現在三十名の会員が常時二十六名〜二十八名参加。会員は麻雀に出席するという目標があるせいか欠席者が少ない(最高齢は女性八十八歳、男性八十七歳)。競技性を深めるために、実績を集計し、毎月ベスト三名の氏名と点数を掲示。三ヶ月目には個人実績の中間発表。年二回の大会の表彰式では半年間の全員の順位も記入し成績表を配布。会員はまるで通信簿を見るように一喜一憂しながら「今度こそ」と心新たに闘志を燃やしている。



頭脳、指先をフル回転

「老雀士 脳活性し 日々楽し」

大会の賞は優勝・準優勝等の他に、更なる意欲向上のためにW賞として役満、皆勤、高得点賞もある。大会終了後の親睦会では、折り箱とおつまみ、そして乾杯程度のビール、お酒が添えられる。親睦会では互いの失敗談に同情したり爆笑したり、持病の打ち明け話に乗ったり乗られたりと心を通わせ絆を深め、本音で付き合える良い仲間がどんどん増えていく。数人が異口同音に「普段家ではボーツと過ごしている時間が多く、一日がとても長いが、麻雀の日は人に会う喜びで朝から浮き浮きし、プレイの四時間はあっという間。とても充実。また、外出が増え、身だしなみにも関心を持つ様になった。」と。会員は日、一日と、意力、気力が出て動作も少しずつ速くなり、知力も甦り、駄じゃれや冗談も連発し、声高らかに笑い、若返ってきている様に見える。

☆☆中央地区☆☆

町内の防災

中央地区生涯学習奨励員

佐々木 孝



日頃からの心構えが生死を分ける

西日本豪雨では、すでに二百人を超える犠牲者を出す惨事となり余波はまだ続いている。災害はいつでも起こるかわからないので、日頃から非常事態に対応する心構えが必要である。中通町内では、現在これらの災害に対する自主防災の組織をつくって備えようとしている。当地は、町域が広いうえ高齢化が進んでいることから、災害発生時には多くの混乱と困難が予想されるからである。町内には一時避難場所として千秋公園や中通小学校などが指定されているが、災害によってはこれも利用できず、より手近なところに緊急避難を要する場合もある。水害の場合は、水位が膝までくると、普通は遠くまで歩けない。

そのため、町内といくつかのマンションとの間で相互協定を結び、非常時には手近なマンションの高層階に一時避難をするなど、具体的な対応を考えている。また、自力で避難が困難な人の誘導・救助を行う担当を定めている。

災害時におけるひとの行動は、本能に還り動物的なものとなる。だから、とっさに自衛の行動をとるためには、日ごろから頭ではなく体で覚えておくことが肝要である。町内では秋の防災の日、消防署員の指導のもと避難や消火訓練のほか、役割を分担し自力で避難できない人の誘導などのシミュレーションを行う。この訓練で得た体験は必ず住民一人ひとりの命を救うことにつながる。

☆☆北部地区☆☆

旧北部公民館を懐かしむ

下新城交流センターサークル連絡協議会

会長 斉藤 清 克

北部公民館は昨年公民館、体育館とも耐震補強工事のため約一年間休館、工事終了後の今年四月一日付けで廃止し、建物を北部市民サービスセンターへ所管換えして、ネーミングを下新城交流センターに変更され運営体制も様変わりしました。

顧みれば、北部公民館は昭和五十一年四月に開館、地域の「自主的な学習活動」のための場として「集い・まなぶ・つなぐ」をコンセプトに各種

の事業を行っておりました。

昭和五十三年六月に、スポーツ広場の設置、その後昭和五十六年一月には北部農業者総合研修センターとして体育館がオープンし、スポーツ活動も活発に行われるようになり、文字どおり文化、スポーツ活動の拠点となり、生涯学習の場として大勢の方に利用されてきました。このように施設の充実に伴い、サークルの活動も活発になり昭和六十一年四月に先人の方々の努力と公民館職員の協力により、サークル連絡協議会が発足しました。そして、平成二十五年度の役員改選を契機に、事務局を公民館から会長宅へ変更し、新たな一歩を踏み出しました。

特に、地域住民はじめ幼児から中学生と多くの方々の協力で開催される一大事業であります「公民館まつり」を通じて、日頃の学習成果を発表紹介し、地域住民との交流を楽しんできました。

サークル連絡協議会としては、生涯学習でありますサークル活動が、市民から理解されるようお願い、平成二十八年四月「サークル創立三十周年記念誌」を刊行したことは、思い出を残す良い機会であったと思います。

ちょうど北部公民館創立四十周年と、記念すべき年が重なり、公民館に思いを込めて「まつり」が盛大に行われ、結果として公民館とのお別れ会であったとも思われます。今振り返ると、北部公民館は体育館も隣接しており、しかもバスケット、ソフトテニスもできる大きさと、中央からの利用者も多く、恵まれた環境で活動させていただいたことに思いを深めております。

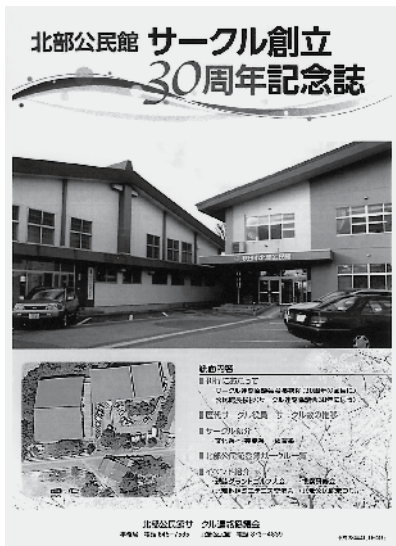
残念なことは、体育館に舞台がなく「まつり」では重いステージを運んで舞台を設置したことです。高齢者の仲間がよく頑張ってくれたと、感謝を忘れることはできません。

長い間サークルはじめ地域、市民の方の行事イベント等を支え、生涯学習の場として愛された四十年間、これからは下新城交流センターとして新たに時を刻んでいくこととなります。

今年から体育館が予約案内システムでの予約が可能となり、多くの市民から利用されることを期待されております。



節目の年は例年以上の盛り上がり



生涯学習の場として長く親しまれた

この頃特に、サークルの高齢化も進んでおり、長寿社会と同時に健康長寿という言葉を盛んに耳にします。健康維持にはウォーキングやスポーツをしたり、頭を使ったり、手先を使ったりして仲間と触れ合うことが重要であると言われております。これからは「人間関係」つながりあい、ささえあい」が必須です。そのためには「人むすび」が大事です。これらの一端を担っているのが生涯学習であるサークル活動です。

「笑いあり、拍手あり、モグモグタイムあり」と楽しさありのサークルへ、外の空気を吸うつもりで出かけてきてください。きっと良い遊びの場が見つかるはずですよ。

私も趣味の盆栽をつうじて「人つながり」で北部公民館のサークルに入会し、約十五年間お世話になっており「人むすび」につながっています。

皆さん、これからも健康で長生きを目指して、近くのコミセンなど公共施設を大いに活用し楽しい日々を過ごしましょう。

☆☆ 南部地区 ☆☆

南部市民サービスセンター
「なんびあ別館」の開所に寄せて

南部地域づくり協議会会長 佐藤 義明



南部地域の新たな拠点

私たち南部地域づくり協議会は、平成二十六年五月に開所した「なんびあ」を拠点に、南部地域における住民自治の担い手として、住民相互の交流を図りつつ、地域の諸課題の解決に取り組む、住みよい地域づくりを推進してきました。今年七月二十四日には旧南部公民館跡地に「なんびあ別館」が開所され、その開所式、祝賀会には穂積市長をはじめ、秋田市議会の皆様、多数のご来賓の皆様のご臨席をたまわり、大変盛大なセレモニーが執り行われました。ありがたいご祝辞や身に余るお褒めのお言葉をいただき、身が引き締まる思いでした。



素晴らしい演奏でお祝い

地域の皆様のご意見を伺い、ご理解とご協力をお願いしながら、「ここに住んで良かった」と思われるような地域づくりを目指して参りたいと考えております。「なんびあ別館」の開所から新しい南部の歴史が始まることを祈念しております。

待望の「なんびあ別館」が開所したことにより、南部地域は二カ所の拠点を有することとなります。各市民サービスセンターのうち、二つの拠点があるのは唯一、南部市民サービスセンターのみとなりますので、双方の連携と効率的な運営が求められることとなります。

牛島、仁井田、大住、上北手、御所野、四ツ小屋、御野場の七地域が相互理解を深め結束を強めることにより、地域の皆様に親しまれ愛される施設となるよう、理事、職員一丸となって尽力してまいります。

農業地域あり、新興住宅地あり、秋田の歴史と文化をはぐくんできた地域あり、それぞれの地域の特性を集約することにより、個性的で魅力のある新しい南部地域が形成されるよう取り組んでいきたいと思っております。本番はこれからであります。

《連載》社会教育・文化施設等

「土崎みなと歴史伝承館」

生涯学習 地域福祉担当 石井 実

今年三月二十四日に土崎の旧土崎支所・土崎消防署跡地にユネスコ無形文化遺産に登録された「土崎神明社祭の曳山行事」と土崎空襲で被爆した「旧日本石油秋田製油所」のコンクリート柱を中心に土崎の歴史と文化を紹介する施設として「土崎みなと歴史伝承館」が開館しました。

平成二十五年八月に土崎歴史資料館建設期成同盟会から秋田市に対して資料館建設の提案があり、それを踏まえ平成二十六年三月に「歴史と文化を生かした人づくり・まちづくり・にぎわいづくりの拠点」「曳山の伝承、被爆体験の継承を中心に港と町を一体化したまちづくり拠点施設」などをコンセプトとした「土崎まちづくり基本構想」を策定しました。以来四年の歳月を経て、このたびオープンしたものであります。



巨大な曳山は迫力満点

内部は、常設展示室、曳山展示ホール、空襲展示ホールをメインとして伝承室、学習室、企画展示室などで構成されています。特に曳山展示ホールに置かれている曳山は十一・五メートルの高さで、実際のお祭りの時に曳かれる曳山(約四・五メートル)の倍以上となっています。明治年代に製作した曳山の高さには及ばないものの、少しでも往時の高さに近づけたいとの思いで製作したものであります。空襲展示ホールにあるコンクリート柱は太平洋戦争の貴重な遺物として移築したもので、一部は触れることもできるように展示しております。空襲時のジオラマやモニターには慰霊碑の設置場所も映し出され、現実世界とはまた違った雰囲気を出している場所でもあります。



貴重な遺物に触れることもできる

その他にタレントの壇蜜さんのナレーションや実物大の「秋田街道絵巻」など見所満載の施設であり、さらに今秋には北前船の模型(実物の十分の一、長さ約三メートル)も展示予定であります。まだ見てない方は、是非足を運んで見てください。

秋田市土崎みなと歴史伝承館

住所 秋田市土崎港西三丁目十番二十七号

電話 〇一八・八三八・四二四四

開館時間 午前九時～午後五時

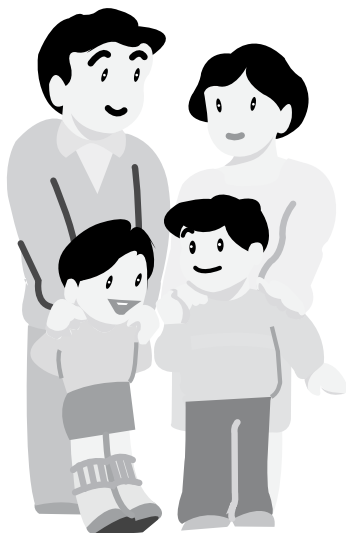
休館日 毎週火曜日(火曜日が祝日の場合は翌日)

年末年始(十二月二十九日～一月三日)

入館無料

駐車場 二十八台

電車 JR土崎駅より徒歩十分



平成三十年度
秋田県生涯学習奨励員協議会
功労者表彰

平成三十年五月十五日、秋田県生涯学習センターにおいて開催された、平成三十年度秋田県生涯学習奨励員協議会の席上で、左記の方々が表彰されました。

相原 律子 奨励員（西部地区）

佐々木 妙子 奨励員（河辺地区）

おめでとうございます。
今後ますますのご活躍をご祈念申し上げます。



生涯学習奨励員って・・・

地域における生涯学習を盛んにするためには、住民の身近なところで学習活動を奨励、援助する人が必要です。

生涯学習奨励員は、市町村や各種団体が主催する行事への参加を促したり、楽しい学習事例を紹介したりするほか、市民サービスセンターなどで開催される地域の行事を自ら企画したり、他の企画に進んで参加または応援、協力する等の役割を担っています。

「あしたの風」はどのように配布しているの？

「あしたの風」は年2回（9月と2月）各一、一〇〇部発行し、秋田県の社会教育施設（生涯学習センター、図書館など）や秋田市の社会教育施設（図書館など）、社会教育関係委員（社会教育委員、生涯学習奨励員など）に配布しています。

このほか、市民サービスセンター、地域センター、コミュニティセンターにも配布しています。

ご希望の方は秋田市教育委員会生涯学習室（八八八―五八一〇）までご連絡ください。

編集後記にかえて

最近、認知症予防に効果があると言われて、「健康麻雀」の人気が続いている。

行政も、高齢者に対する介護予防事業として、健康麻雀を取り入れているという。

メディアでも取り上げている。
今回の「あしたの風」に健康麻雀が載っている。
時代は変わって来たと思った。（田村）

編集委員（秋田市生涯学習奨励員）

- 田村 美穂子（土崎） 佐々木 孝（中央）
- 池田 チヅ子（東部） 相原 和子（西部）
- 乙供 美香（南部） 相澤 栄子（北部）
- 石塚 小枝子（河辺） 竹下 潮子（雄和）

『あしたの風』第87号

発行 平成30年9月3日
編集発行 秋田市教育委員会生涯学習室
秋田市山王一丁目一番一号

電話 〇一八―八八八―五八一〇

この広報誌は

単価 一部57円（消費税抜き）

発行部数 一、一〇〇部

配布方法 無料配布